

今朝は姉ヶ崎キリスト教会の会堂15周年を記念しての礼拝です。そこで、教会について考えていきます。

### 1. エペソ教会への勧め(1~3節)

- ①使徒パウロ(1)「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」エペソはエーゲ海に沿った、当時の主要な町の一つでした。使徒パウロは第二次、三次伝道旅行でこの町で宣教をしています。特に第二次の時には、パウロとしては異例なほど長く3年半ほど滞在し、教会の建て上げに労したのです。ですから、この教会の内情については熟知していたと言っても良いのです。その教会に向けて紀元61年頃に記されたのがこの書簡です。エペソ人への手紙には、教会論が述べられています。「教会はキリストのからだ」であり「一切のものを満たす方の満ちておられる所」(1:23)に教会の本質が示されています。4章以降は、その適用が語られています。1節「主の囚人である」とありますが、パウロは実際ローマの獄中にあつたのです。しかし、キリストにつながる僕という意味も込められています。パウロはエペソ教会の人々を「主に召された者は、その召しにふさわしく歩むように」とありますが、主に召されたことがいかに大きな恵みかを確認しているのです。
- ②謙遜と柔和(2)「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」主なる神に召された者たちの取るべき姿勢が示されます。その第一は謙遜です。神と人の前に謙遜であるということです。自己中心にならず、虚栄を張らず、自分が罪人であることを忘れないのです。柔和は外側にも現れますが、モーセがそうであったように、大きな視野を持つことです。その上で、まずはクリスチャン同志が寛容の心をもって交わるのです。相手の立場と状況、資質や性格を理解して、包容して臨むのです。また、何と云っても愛が肝心です。それは神に源を発するアガペーの愛であり、犠牲的で非打算的なものなのです。それは神からこそ注がれるもので、神からそれをいただいて、互いに忍耐をもって接しなさいと勧められます。
- ③平和の絆(3)「平和のきずなで結ばれて、御霊の一致を熱心に保ちなさい。」さらに、「平和の絆で結ばれて」とありますが、平和とは天来の平和です。共に主を見上げるからこそもたらされる平和です。人間による平和の希求とそれをもたらし努力は貴重です。しかし、人間がもたらし平和は互いにどこで妥協するかという政治的なものになってしまいやすいです。しかし、主にある者たちが求められているのは、御霊の一致へと結びつくものなのです。つまり、人間の



側が作り出す一致ではなく、御霊なる神がもたらせてくれる一致なのです。だから、人との関係に一致をもたせようとするなら、御霊なる神を心からともに熱心に求めることでありましょう。そこにこそ、御霊の一致につながる道が開かれてくるのです。なぜなら、御霊なる神のご本質に平和が秘められているからです。

## 2. 一つであるもの (4~5 節)

①からだは一つ (4)「**からだは一つ、御霊は一つです。**」ここでの「からだ」というのは、「**教会はキリストのからだ**」という時の「からだ」です。究極的な「**教会**」は一つなのです。さらに、御霊というご存在は「**神ご自身**」ですから、いくつもあるわけがありません。ひとつなのです。

②望みが一つ (4)「**あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。**」「あなたがた」というのは、主に召しだされたクリスチャンたち。ここでは特に、エペソの教会の人々に呼びかけられているのでしょうか。でも、私たちを含めたすべてのクリスチャンにあてはまります。主がクリスチャンをキリストへと導き、救いをもたらしてくださった時に、示された望みというのは一つだということです。それぞれに色々な具体的な希望があったかもしれませんが、ここではそうした個別的な希望のことではなく、キリストによって与えられる永遠のいのちという希望なのです。

③信仰は一つ (5)「**主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。**」「一つ」が続きますが、主こそは一つの元締めです。三位一体なる神は、三つの位格があり一つなるかたなのです。そして、「**信仰**」もあちこちが見上げられるのではなく、唯一の方向なのです。へブル書 11 章に「**信仰**」が語られています。信仰者たちが見上げていたのはお一人なのです。さらに、バプテスマも一つなのです。復活の主が弟子達に偉大なる宣教命令を出された時に命ぜられたバプテスマ一つなのです。

## 3. 賜物を用い (6~8 節)

①父なる神はひとつ (6)「**すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののおられる、すべてのものの父なる神は一つです。**」そして、父なる神は一つです。この方はすべてのものの上にある方、すべてのものを貫き通す軸のような方、そしてすべてのもののおちにご関与されている方なのです。唯一の神のもとにすべてのものはあるのです。

②キリストの賜物 (7)「**しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。**」それでは、クリスチャン一人一人には、どのような意味や価値があるのでしょうか。ここには、一人一人に恵みが注がれているということです。恵みというのは、神からもたらされるものです。そして、それは具体的には、キリス

トの賜物が一人一人に、キリストの賜物の量りに従って、与えられるのです。その賜物を用いて生きるところに、人間にとっての喜びや平安があるのです。

③人々に賜物を (8)「**そこで、こう言われています。『高い所に上られたとき、彼は多くの捕虜を引き連れ、人々に賜物を分け与えられた。』**」詩篇 16:18 に裏付けがありました。つまり、この意味は勝利をした王が、戦利品を家来した者たちに分け与えられるように、教会に連なるクリスチャンに賜物を分け与えられるのだということです。

《結論》近頃、この国の一般社会においてやたらと「**教会**」という文字が飛び交っています。それが「**教会**」という文字にふさわしく用いられているのならともかく、全く異った内容であるがゆえに、憂慮します。申し上げているように、「**統一教会**」というものは、キリスト教会とはなんら関係なく、伝統的なキリスト教の一部分を取り出して作り上げて新興宗教です。それは今朝学んでいる聖書箇所からも明らかです

今朝、私たちは新約聖書のなかの獄中書簡と言われるエペソ人への手紙 4 章から学んでいます。この書が教会論を述べているということは、既に記したとおりです。読んできて、気が付かれたように、何回にもわたって出てきた言葉があります。それは「**一つ**」という言葉です。からだは一つ、御霊は一つ、望みは一つ、主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ、父なる神は一つと挙げられています。さきほどのことについて言えば、主は一つならば、三位一体なる神以外がそこに登場できないのです。文鮮明なる人を、再臨の主とすることは、「**主は一つ**」という告白から外れるのです。また、その望みとすることも、信仰も、教会についても、バプテスマについても、ここにある「**一つ**」から外れるのです。

統一教会のことはそこまですべてとして、この聖書箇所です使徒パウロは何を勧めているのでしょうか。それはやはり「**一つ**」と関連しているのです。キリスト教会における、ユニティー、「**一つであること**」がテーマとなっているのです。「**教会はキリストのからだ**」とありますが、キリスト教会において、「**一つであること**」あるいは、「**一つとなること**」は、極めて大事なことです。そこでパウロは 2~3 節において、「**謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、平和のきずなで結ばれて、御霊の一致を熱心に保ちなさい。**」と教えています。私たちに与えられている信仰から生まれる、謙遜と柔和の限りを尽くすのです。寛容と愛をもって、互いに忍び合うのです。主の平和の絆で結ばれて、御霊の一致を保つことを求めるのです。それが、教会に連なる者達にとって、極めて大事な目

標だからです。

今年で、この地域にある「姉ヶ崎キリスト教会」は、この会堂での歩み 15 周年を迎えました。あつという間の月日と言えないことはありません。群れはまだ弱体ですが、この間に 18 人の方々が教会に加わり、9 人の方々が洗礼を受けました。また、現在では二人の長老が立てられ、三人の執事が与えられています。

建物という器が維持され用いられて、そのような内実的な果実が与えられていることはまことに感謝なことです。それでは、私たちの教会が今、覚えていかねばならないことは何でしょうか。今朝の聖書から導かれることは、文字通りの「御霊の一致」を求めることでありましょう。ひとりのまことの神を共に見上げ、謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容と愛をもって、互いに忍び合い、ともに主を礼拝し、主を宣教し、賜物を用いて奉仕をなし、交わりをなしていきたいのです。主からの祝福を 20 周年に向けて、さらにいただくためにも、ともに祈っていこうではありませんか。